

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞ 肺腺癌における Spread Through Air Spaces (STAS) の意義に関する研究
＜研究機関・研究責任者名＞ 日本大学医学部 外科学系呼吸器外科学分野（附属板橋病院）・櫻井裕幸
＜研究期間＞ 機関の長の初回許可日 ～ 令和10（西暦2028）年 3月 31日
＜対象となる方＞ 2017年1月1日から2020年12月31日までに当院呼吸器外科を受診され、肺腺癌と診断されて、手術を受けられた方
＜研究の目的＞ リンパ節に転移のない早期の肺癌は手術後の経過がよいとされていますが、肺胞の中に浮いているように見える癌細胞がある場合は、再発や転移が起きやすいと言われていています。このような状態を肺胞空気内に腫瘍が広がっている状態（Spread Through Air Space）と定義されており、この現象が起きやすい肺癌の特徴を明らかにして、有効な手術方法を見出すことを目的としています。
＜研究の方法＞ 手術で摘出した癌組織から病理診断のための標本が作製されますが、病理診断が確定した後に余っている組織を用いて、遺伝子発現の違いを網羅的に解析します。
＜研究に用いる試料・情報の項目＞ 研究に用いる試料は、手術で摘出した癌組織から作製された病理診断のための標本と、患者の臨床情報（年齢、性別、病期、TNM分類、術式、再発、転移の有無、CT画像、腫瘍マーカーなど）です。研究に用いる情報は、肺癌の大きさや転移の有無などの病理学的評価項目と手術方法や手術後の経過などで、個人情報に関する情報は一切使用いたしません。 同意を撤回された場合は、すべてのデータを研究リストから削除しますが、研究成果を論文として公表した後は、データを削除することはできません。
＜お問い合わせ窓口＞ 日本大学医学部外科学系呼吸器外科学分野医局（2464） 鈴木淳也

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方